

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

| | |
|-------------|--|
| NITS・教職大学院等 | 実施機関名・連携機関名 福島大学大学院人間発達文化研究科教職実践専攻（教職大学院） |
| コラボ研修プログラム | 事業名: 学び続ける教師コミュニティ: 福島県の新たな教育実践をめざす研修プログラム |
| 支援事業報告書 | 研修等名: 【NITS・福島大学コラボ研修】 主タイトル及び副タイトル ・学び続ける教師コミュニティ 2022 夏教育実践福島ラウンドテーブル ・学び続ける教師コミュニティ 2023 春教育実践福島ラウンドテーブル 主タイトル: 学び続ける教師コミュニティ 副タイトル: 福島県の新たな教育実践をめざす研修プログラム 【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2022 夏教育実践福島ラウンドテーブル 開催日時: 令和4年8月27日 10時~16時 開催場所: 福島大学 (福島県福島市金谷川1番地) 参加人数(総数)と参加者の属性: (144人) 教員79人、学校管理職8人、研究者14人、障がい福祉関係者2人、病院・看護関係者1人、行政職・指導主事24人、学部生5人、大学院生6人、その他5人 【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2023 春教育実践福島ラウンドテーブル 開催日時: 令和5年2月18日 10時~16時 開催場所: 福島大学 (福島県福島市金谷川1番地) 参加人数(総数)と参加者の属性: (150人) 教員72人、学校管理職10人、研究者26人、障がい福祉関係者1人、行政職・指導主事14人、学部生12人、大学院生7人、その他8人 |

内容:

【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2022 夏教育実践福島ラウンドテーブル

令和4年8月27日、午前の部で参加者全体を対象とした基調講演がオンラインにより開催された。講演に先立ち、主催者を代表して福島大学大学院人間発達文化研究科長の初澤敏生氏より挨拶があった(写真右上)。その後10:10~12:00まで、中村恵子・東北福祉大学総合福祉学部教授(写真右中)により、「別室登校法とチーム支援の機能分析」をテーマとする基調講演が行われた。

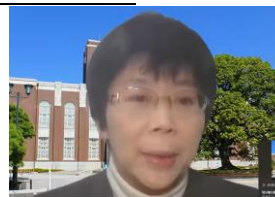
本講演では、まず、一般的に子どものケアを担当がマルチに担う傾向があり、それが担任の支援が奏功しない問題を誘発し、さらに、そうした担任をサポートする校内支援体制が機能不全を起している実態について確認した。次に、こうした実態を踏まえ、不登校の背景として子どもの問題だけでなくその支援体制の問題を読み解く必要があることが指摘された。その上で、具体的に、別室登校の子ども支援の在り方が例示されながら、その支援プロセスでチーム支援がそのように機能したかについて分析が行われ、チーム支援体制の変化と支援対象生徒の変化が深く連動している実態について確認し、改めその結果、不登校が引き起こされている問題等について確認した。講演後、約10分間質疑が行われた。



【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2023 春教育実践福島ラウンドテーブル

令和5年2月18日、午前の部で参加者全体を対象とした基調講演がオンラインにより開催された。前回同様、最初に、主催者を代表して初澤敏生氏より挨拶があり、その後10:10~12:00まで、西岡加名恵・京都大学大学院教育学研究科教授(写真右下)により、「子どもたちの豊かな学びを実現するための『教育評価』— パフォーマンス評価をどう活用するか —」をテーマに基調講演が行われた。

本講演では、学校のカリキュラム改善を進める上で、各学校のカリキュラム・マネジメントが重要となるという観点から、各学校において子どもたちの豊かな学びを実現するために、パフォーマンス評価をどう活用できるかについて検討された。パフォーマンス評価とは、知識やスキルを使いこなすことを求めるような評価方法の総称だが、具体的には、パフォーマンス課題やポートフォリオ評価法などがあることを確認した。その上で、パフォーマンス評価を効果的に活用しつつカリキュラム・マネジメントを進めるための教員研修の在り方についても探究された。講演後、約10分間質疑が行われた。



成果：

【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2022 夏教育実践福島ラウンドテーブル

◆中村恵子氏の基調講演に関する参加者の声（86 件の自由記述あり。下記に具体例を記す。）

- ・支援モデルが事例を通して大変わかりやすかったです。チーム支援という言葉は、よく学校の中で使われていますが、それぞれの役割とその関係、伝達がポイントになっていることや支援する中での困っているところへのスーパーバイザーの重要性がよく分かりました。
- ・実例をもとにチーム支援の説明がなされており、ドラマのように惹き付けられて聴き入ってしまいました。高校籍の教員ですが、中学校で不登校だった生徒が高校に入ったとき、どのようにアセスメントしていったらいいか、校内体制をどのように作っていったらいいか、大変参考になるお話でした。
- ・不登校など様々な問題を抱える児童生徒のために学校や教育委員会がどのようにしていったらいいのか、別室登校支援モデルとチーム支援の大切さを具体的な事例をもとに分かりやすく、感動的にお話しいただいてとても参考になりました。
- ・現場の困り感や推進の仕方について、切り口としてどこに、どのように火をつけ進めていけば良いのかがよく理解できた。不登校の壁を突き破るのは、学校経営としての校長のリーダーシップとマネジメント、組織マネジメントとしての「チーム力」、専門的な「ケースマネジメント」がバランス良く動いていくことであると理解できた。そして、学校全体で共通理解の下に、一人一人の子供の困り感を共有し、どれだけ子供の心に入っていけるかがキーワードとなる。「熱さ」と「専門性」「適材」私の今日の学びである。

【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2023 春教育実践福島ラウンドテーブル

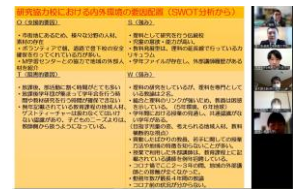
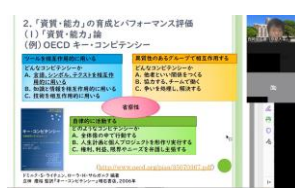
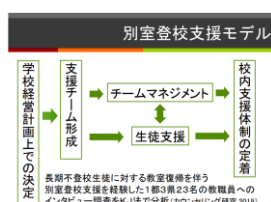
◆西岡加名恵氏の基調講演に関する参加者の声（66 件の自由記述あり。下記に具体例を示す。）

- ・パフォーマンス課題を設定して実践は行っているが、これでよいものなのかと不安になることもありましたが。今回の講演内容を参考に、さらに課題設定やルーブリック評価を工夫して行いたいです。たいへん参考になる講演でした。ありがとうございました。事例を挙げながら、丁寧にお話しいただき、大変勉強になりました。疑問に感じていたことについて理解することができました。資質・能力の育成について多くの示唆をご教示いただき、今後の教育・研究に生かしていきたいです。
- ・具体的な授業をイメージすることができた内容を用意して頂き、大変参考になりました。単元で身に付けさせたいことはどのようなことなのか、教師自身が明確に持っていることが大切であるということに改めて実感し、さらに教員として勉強を重ねていく必要があると感じました。
- ・なぜ、ポートフォリオ評価が大切なのか、多面的・多角的に子供を見取り生かす評価、実際の生活と結びつけた課題づくり、単元づくりの実際について深く学ぶことができました。講話も歯切れ良く大変わかりやすかったです。一番お聞きしたかったルーブリックの作成の仕方、子供たちへの開示方法について、貴重なご助言をいただき本当に勉強になりました。
- ・講演を聴く前はこれを機に総合的な学習の時間について学ぼうと意気込んでいたのですが、それ以上の収穫でした。自分の教科に当てはめるときにどうなのか、難しいのではないかと、いやこんなことができそうだと。思考の連続でした。来年の研究に大いに生かせそうです。汎用性の高い内容だったと思います。ありがとうございました。

アイデアや工夫したこと：

- ・基調講演のテーマは、福島県内の教育関係者および現職派遣の院生等も参加する「ラウンドテーブル実行委員会」において希望テーマを調査しその結果を協議して検討を重ね、県内の教育課題に応える内容を設定できるように工夫した。また、事務局体制を強化し、午前・午後の Zoom 招待状を 1 本化した。
- ・オンラインによる基調講演が円滑に運営できるように、PC 付属ではない Zoom で使用するカメラやマイクを準備し画像・音声の情報環境の安定化をはかった。また事前に講師との Zoom 交信テストを行った。
- ・本ラウンドテーブルの取り組みについて社会的発信力を高めるため、同席の参加者に確認した上で、地元報道関係者（1 名）から出された午後のラウンドテーブルへの参加希望を認めた。

<写真・図など>



2022 夏講師提供資料

2022 夏午前の様子

2023 春講師提供資料

2023 春午後の様子